

FROM OUTCOMES TO CAPITALS

OUTCOME、そしてCAPITALへ

創出する社会価値、享受する経済価値

イトーキは、「働く」場を取り巻くさまざまな課題の解決を通じ、「社会と人々を幸せにする」「会社と社員が幸せになる」に関連した社会的価値創出に取り組んでいます。さらに、課題解決において、イトーキらしいソリューションを提供することで、経済的価値創出を図っています。今後も社会的価値と経済的価値の両方を追求し、持続的な社会と企業の成長につなげていきます。

創出する社会価値

エンゲージメント調査の
特定指標肯定回答率
74.7%
(前期比+11.1%)

オフィスレイアウト
提案件数
1万件
(年間)

設備投資額
37億円
(前期比-33億円)

チェアの納品
40万脚の納品
(年間)

研究開発費
27億円
(前期比+4億円)

CO₂排出量
(Scope1~3)
242,324 t-CO₂
(前期比-10.1%)

享受する経済価値

売上高
1,329億円
(前期比+7.8%)

フリーキャッシュフロー
23億円
(前期比-78.5%)

営業利益
85億円
(前期比+86.0%)

配当金総額(年間)
1,904百万円
(前期比+13.7%)

営業利益率
6.4%
(前期比+2.7pts)

ROE
11.3%
(前期比+0.2pts)

資本への
転換

6つの資本



6つの資本

社会価値・経済価値は財務資本、人的資本、製造資本、知的資本、社会関係資本、自然資本の6つの資本に転換され、資本の強化につながります。

イトーキのさらなる企業価値創出に向け、各資本の目指す姿、実績、実績を踏まえ「足らざる資本」と認識している課題、課題を克服するための方向性をご説明いたします。

資本	目指す姿	2023年実績	「目指す姿」を実現するための課題 (足らざる資本の認識)	今後の方向性
 財務資本	<p>新中期経営計画最終年度2026年に向けて、イトーキ史上最強の財務体質を実現していきます。</p> <p>重点戦略7Flagsの実現により利益創出能力を強化するとともに、キャッシュフローを最適化し、資産効率の改善および財務レバレッジを適切にコントロールしていきます。想定株主資本コスト9～10%に対して、ROE15%をKPIとし、エクイティスプレッドをさらに良化させ、資本コストと株価を意識した経営を推進していきます。</p>	<p>営業利益 85億円(前期比+86.0%)</p> <p>営業利益率 6.4%(前期比+2.7pts)</p> <p>ROE 11.3%(前期比+0.2pts)</p>	<ul style="list-style-type: none"> フォーキャストの精度向上 グループ全体での資産効率化 キャッシュコンバージョンサイクルの改善 会社別および事業別ROICの導入・展開 	<p>ERP導入による経営管理の高度化を進めるとともに、グループにおける構造改革を断行し、シナジー創出を図ります。会社別および事業別ROICを導入、展開すべく、これを中心に据えた経営管理を構築し、事業ポートフォリオの強化を図ります。</p>
 人的資本	<p>イトーキグループの競争力の源泉は、人財です。経営戦略に応じた人財育成や専門性の強化、またそれに応じた制度を整備するほか、多様な人財が活躍できるオフィス環境を構築することで、従業員一人ひとりがエンゲージメント高く働ける会社を目指しています。</p>	<p>従業員エンゲージメント調査結果 74.7%(前期比+11.1%)</p> <p>女性管理職比率 10.3%(前期比-0.4%)</p> <p>空間デザイナー人数 160人</p> <p>営業関係人数 400人</p>	<ul style="list-style-type: none"> Office3.0を実現する専門人財 従業員のさらなる成長機会 管理職層の多様性 人的資本をさらに高める働く環境 	<p>2024年度より開始する人事制度改革を軸に、専門人財やグローバル人財の採用、育成・研修制度の充実、社内ファシリティへの投資など、専門性と多様性の強化に重点的に取り組むことで、目指す人財像を実現していきます。</p>
 製造資本	<p>製造資本は、製造業において価値を生み出す基盤となるものです。長年にわたって培ってきたノウハウや日々の改善活動、先進的なテクノロジーを駆使した高度な製造技術を活かし、付加価値が高く、QCD(品質・コスト・納期)に優れた製品を提供し続けます。</p>	<p>設備投資額 37億円(前期比-33億円)</p> <p>連結 11工場</p>	<ul style="list-style-type: none"> 変化するお客さまニーズに合わせた生産体制 国内11工場の最適な生産方針 業務の「標準化・簡素化・自動化」に資するITインフラ 	<p>グループ生産供給体制の再編により、多品種生産の対応やライセンス生産・OEM生産の拡大などを図るほか、社内ITインフラの高度ERP化により生産・物流計画の精度を高め、生産・業務効率を向上していきます。</p>

[対象範囲] ・女性管理職比率・デザイナー人数・営業関係人数：イトーキ単体
 ・エンゲージメント調査の特定指標肯定回答率[誇り]：実施会社の集計
 ・その他：イトーキおよびグループ連結子会社

資本	目指す姿	2023年実績	「目指す姿」を実現するための課題 (足らざる資本の認識)	今後の方向性
 <p>知的資本</p>	<p>独自の技術開発や知的財産は、持続的な競争優位性につながります。開拓精神のDNAを受け継いだ先見性、研究・試作・実験により蓄積された豊富なデータに基づくイノベーション力などの無形資産により、新たな明日の「働く」を創造する研究開発を目指しています。</p>	<p>保有特許数 768件 <small>※保有特許数は2022年末実績</small></p> <p>内装意匠登録件数 39件(前期比+130%)</p> <p>研究開発費 27億円(前期比+4億円)</p>	<ul style="list-style-type: none"> Office3.0を実現する新たな技術 中長期的な事業拡大に資する研究 	<p>将来の成長につながるR&D投資枠を設け、新たな技術や知的財産を生み出す活動に力を入れています。また2023年に設立した中央研究所を中心に、オフィスづくりとオフィス家具づくりの未来の創造に取り組んでいきます。</p>
 <p>社会関係資本</p>	<p>新たな価値を提供し、お客さまの期待に応え、深い信頼関係を築いていくためにはさまざまなステークホルダーとの連携が重要です。製品を提供するサプライヤーとして、また原材料を調達するバイヤーとして、双方の立場でステークホルダーとの相互発展を目指し、強固な関係構築を進めています。</p>	<p>オフィスレイアウト提案件数 1万件(年間)</p> <p>サプライヤー社数 1,024社</p>	<ul style="list-style-type: none"> 変化するお客さまニーズに応える商品力・提案力 グループ全体で最適化された調達体制 	<p>商品力強化を通じた体験価値の訴求や空間一体での付加価値提案を目指し、体制を強化しています。また外部協業による材料の共同仕入れやサステナブル調達活動を推し進めることで、安定したサプライチェーン網の構築に取り組んでいきます。</p>
 <p>自然資本</p>	<p>企業は、水、土壌、大気、そして多様な生物などの自然資本と密接に関わっており、バリューチェーン全体で利用を最適化し、維持していく必要があります。イトーキグループではさまざまな観点で事業活動による環境負荷を低減し、持続可能な地球環境への貢献を目指します。</p>	<p>CO₂排出量 (Scope1~3) 242,324t-CO₂(前期比-10.1%)</p> <p>水使用量 78,132m³(前期比-19.9%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 永続的に入手可能な天然資源 循環型のビジネスモデル 	<p>喫緊の課題である気候変動対応においては、従来の省エネ活動の継続・強化に加え、各事業拠点で再エネ設備も導入し、中長期のCO₂排出量削減目標に向けて歩みを進めています。ほかにも水資源や生物多様性、資源循環など多様な観点で取り組みを行います。</p>

[対象範囲] • CO₂排出量、水使用量：イトーキ(単体)、国内グループ会社13社、海外グループ会社2社
• その他：イトーキ単体